

クラス	TU108	担当教員	山本 敏郎
テーマ	福祉ベースの教育実践をつくる—貧困と生きづらさに向かい合う—		
著書・論文	<ul style="list-style-type: none"> ○『教育改革と 21 世紀の学校イメージ』いしかわ県民教育文化センター 2000 年 ○『学校と教室のポリティクス』フォーラム A 2004 年 ○「教育と福祉の間にある教師の専門性」日本生活指導学会『生活指導研究』28 号 エイデル研究所 2011 年。 		
研究課題等	<ul style="list-style-type: none"> ○「貧困の何を問題にすべきか」『生活指導』2009 年 8 月号 ○「〈格差〉〈貧困〉問題と生活指導」『生活指導』2008 年 7 月号 ○「加害の側の子どもの苦悩に寄り添い、つなげる—〈加害者〉と〈被害者〉との境界線をこえる—」『生活指導』2007 年 6 月号 		
ゼミナール概要			
キーワード：生きづらさ、貧困、虐待、生活指導、インクルージョン、学童保育、当事者性 etc.			
<p>目的、内容、方法、授業計画等：</p> <p>生きづらさをかかえて苦しんでいる子どもたちをどう支援できるのか、生きる支えとなる学習をどうつくることができるのかを研究します。生きづらさとは、子どもたちがもっているさまざまな願い—友達がほしい、居場所がほしい、自分のことを認めてほしい、思い切りサッカーがしたい、学校をやめたくない、お父さんと一緒に晩御飯を食べたい…—が、自分の能力以外の理由で、かなえられない状態のことです。その根底に、経済的困窮、政治的棄民、社会的排除、文化的剥奪、心理的自己否定からなる貧困があります。</p> <p>いま学校は大きく二つの力の綱引き状態にあります。ひとつは、この貧困と生きづらさをまったく無視して、あるいはそういう子どもたちを排除する力。もうひとつは貧困と生きづらさを抱えた子どもたちの声を聴き取り、子どもたちに「生きられた」学校をつくらうとする力。</p> <p>このゼミでは、後者の側で実践している全国の教師たちと交流しながら（実践記録を読む、直接訪ねる、研究会に参加する、理論書を読む…）、福祉ベースの教育実践をつくる力を身につけていこうと思います。</p>			
担当教員からのメッセージ			
<p>テーマとキーワードは今、山本が関心を持って研究しているものです。こういうことを考えることのできる教師や保育者になってほしいと思います。それが日本福祉大学で学んで教師になることの意味あるいは MISSION だと思うからです。しかし、あなたたちはこれに無理につきあうとかあわせる必要はありません。まず、自分が 2 年間何を学びたいかをじっくり考えてください。それをもって相談に来てください。</p> <p>参考までに、今 4 年生が取り組んでいる卒業研究論文を紹介しておきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童労働を解決するためのアクションプランに関する考察 ○教育実践における〈生きづらさ〉の共有 —金森俊朗の学級づくりの検討を通して— ○非行少年の家庭・地域・学校における受容に関する研究 ○インクルーシブ教育に関する研究 —障害児と健常児の関わりをどうつくるか— ○小学校における教室デザインの研究 —掲示物の彩色・配置を中心に— ○臨床教育学における子どもの理解と援助に関する考察 ○フィンランド教育における共同教育に関する考察 ○授産施設を利用する障害者の自立や生き甲斐 ○児童虐待と貧困 —学校における支援と解決の方法— <p>どのテーマも取り組んだ人の、その人なりの「思い入れ」、どうしてもこれに自分なりの答えを出したいという問いがあります。というかそれが少しずつ見えてくるのがゼミです。じっくり自分のテーマを見つけてください。</p>			